

探討「subarashii」的若干用法

蔡 瓊芳*

摘要

本論文從教學立場來探討學生對日文形容詞〔subarashii〕誤用的若干用法，經過考察後，得知以下結論。

- 考察結論顯示對「人・事物」做評價判斷時，「事物」似乎比「人」較為常用，而且當評價判斷主體為「人」時，第三人稱比較適用。但面對「上位者」，並不適合做任何言語上的評價，因為那是失禮之舉。
- 對「事物」給與高度正面評價，乃是〔subarashii〕的基本用法，因此構文上並不適用否定形，但「連體修飾文節」即不受此限。
- 〔subarashii〕若與接尾語的〔～sugiru〕結合使用的話，反而有負面評價傾向。

關鍵詞：形容詞、評價主體、正面評價、負面評價、主觀性

* 政治大學日本語文學系副教授

「すばらしい」の一考察

蔡 瓊芳*

要旨

本論文では、形容詞「すばらしい」という語に関して、学生の誤用例を示し、指導する上で考慮すべき問題点を考察した。分かった結果は、次のとおりである。

- ・ 人を評価するより、物に対して多く用いられる。従って、人間が評価の主体になる場合、主に3人称で使われる。しかし、目上の人に向けて用いると、評価の対象となるため失礼になる。
- ・ 「すばらしい」はプラス評価をする語であるから、否定形が付かないが、連体修飾節には用いられる。また、接尾語の「～すぎる」が付くと、マイナス評価的な用法になりがちである。

キーワード：形容詞、評価主体、プラス評価、マイナス評価、主観的

* 政治大学日本語学科助教授

A study of “Subarashii” – concept of Japanese word, subarashii –

Chiung-fung Tsai*

Abstract

In this article, I researched a word of “subarashii (splendid)” to give careful consideration to students. Some confused examples by the student are included.

The following is a result of research.

- * The word of “subarashii” is mainly used to the third person. However it will be rather impolite to use it for elders when people become a subject of the evaluation. Such a praiseworthy word is more or less used for things than people.
- * “subarashii” has no negation form. In addition, if “～ sugiru” is suffixed to “subarashii, it will turn to a negative meaning.

Keyword: adjective, identity (initiative), positive evaluation, negative evaluation, subjective.

* Associate Professor, National Chengchi University Department of Japanese

「すばらしい」の一考察

蔡 瓊芳

1 問題提起&考察範囲

今年の初めごろだったと記憶にあるが、日本の某国立大学の学長を会食後、宿泊先へ車で送る途中、台北市内の信義路を通った時、「学長、これが台北101ビルです。素晴らしいでしょう」と隣の席にいた先生が声をかけた。「この場合は、ちょっと、『すばらしい』とは、言わないんじゃないかな」と学長の返事があった。その先生は、「どうして言わないのですか」と聞き返したが、反対にこの場合、どうして言わないのか、研究するよう学長のほうから私は指名されてしまった。なぜ言わないだろう、私も疑問を抱き、興味のある研究テーマだと思った。また、「おいしい」などのようなプラス評価の語には、「おいしくない」のように否定形が用いられるが、「すばらしい」には、用いられるのか。接尾語の「～すぎる」がつくと、どうなるのか、評価される主体は何か、考察してみたい。本論文は、学生の作例（後述する）も含めて、次のことを考察の対象にする。

- 1) 評価される対象・主体は、何か。また、
 - ①「台北101ビルは、すばらしい。」と言えるか。
 - 2) 「すばらしい」には、否定形が用いられるか。
 - 3) 「すばらしすぎる」の言い方

2 「すばらしい」の定義

「すばらしい」について論文を書いた先行文献は、私の調べたかぎりでは、まだ出されていないようである。「すばらしい」の定義とは何か、辞書を調べたところ、たいてい次のよ

うなことが述べられている。(辞書は、参考文献を参照)

- ・「感銘を受けるほど、優れているさま」
- ・「群を抜いて優れている」
- ・「大層優れている」
- ・「驚くほど見事だ」
- ・「程度が甚しいさまをいう」

また、『基礎日本語辞典』(1992: p 245 - 246)では、“そのものの質・内容が極めてすぐれて、立派だと感じる状態”をいうと記されている。

『類義語使い分け辞典』(1998: p 406)には、“結果として内容が分析できるもの・感覚に訴えるものに使われ、非常に優れて質(品質・性能)が高いという強いプラス評価の判断を感激・感動・感嘆を込めて表す。”という説明がある。

本論文に触れる「すばらしい」とは何か。仁田(1998)によれば、「評価・判断形容詞」¹と呼ばれている。この類の「評価・判断形容詞」は話し手の主観性が前面化されている(周、2009: p 43)。

次のことを「すばらしい」の定義とする。

「すばらしい」は、話し手が主観的な判断で、ものを強いプラス評価²に使う。「すばらしい」で評価される「対象・主体」がただ優れているということだけでなく、その優れている程度が極端で、甚だしいさまでなければならないと前提する。

¹ 「難しい・面白い」などもこれに入る。

² 森田(1989: p 15)によれば、評価には、プラス評価(「すばらしい」など)とマイナス評価(「ひどい」など)がある。

ここで、またプラス評価の「評価」とは、何か。その捉え方とは、何かを考えてみたい。評価というと、形容詞の研究にはよく言及されるものであるが、各分野においては、それぞれ違う定義がされているようである。本論文は周（2009：p42-43）に従い、次の立場をとる。

(B)、話し手の主体性としての「評価」

(B)類の「評価」という概念は、良し悪しのようなイメージとは、無関係に物事の客観的に備わった特徴を指し示す場合における話し手の主観的な判断を意味する。

3 評価される〔対象・主体〕

前述したように「評価」とは、一言で言えば、話し手が主観的な判断を下すという意味を指す。プラス評価もあれば、マイナス評価もある。もちろん、その中間的なものもある。話し手の主観的な判断であるから、その判断の基準も人によって、当然違ってくることを一言断っておく。「すばらしい」で評価される〔対象・主体〕を、「人を評価する」場合と「物を評価する」場合に分けて考察する。

3-1 人を評価する

評価される〔対象・主体〕をまず、「人間である場合」から、考察する。その前に〔対象・主体〕が人間である場合は、人間を外面的なもの、内面的なものに分けてみた。では、どんなものが外面的なもので、どんなものが内面的なものなのだろうか。以下に列挙した。

《1》外面的もの：外観から見えるもの。顔立ち、スタイル、身だしなみなど。

《2》内面的なもの：外から見えにくい、感じられるもの、内在的に潜んでいるもの。例えば人柄、

人格、教養、考え、行為、態度、伝統的な価値観など。

このうちの、考え、行為、態度は、結果として外観に現れ、外から見えるもの（振る舞いなど）と繋がってしまうこともあるが、一応、外的なものに入れたい。人柄に関して、木下には、次のような説がある。面白いから、紹介する。

人柄とは、いったい何なのだろうか。心のあり方、声の出し方、顔の表情、身のこなしなどが、総合されて、相手に与える印象と言えるかもしれない。（p 16）

しかしながら、本論文においては、「性格や品格が優れていること」と言う立場を取りたい³。

人を評価するには、外面的な要素にあまり触れないようにし、特に望ましくないようなマイナス評価は避けたいものである。ここで評価される〔対象・主体〕を「目前にいる」場合と、「目前にいない」場合に分けてみる。

3-1-1 目前にいる場合

「すばらしい」という語は評価される対象が「目前にいる」場合は、たいてい用いられないと考えられる。例えば「あなたって、きれいな人ですね」とか「あなたは、ハンサムですね」などという言葉は、本人の前では、たとえプラス評価の場合でも少々言いにくい。しかし、陰で3人称を用いていう場合なら、使いやすい。3人称については、後述する。

テレビの番組の取材、インタビューなどの場面で、「家内です」と紹介されたリポーター（落語家の三笑亭）が「この方が奥さんですか。きれいな奥さんですね」というシーンをみたことがある。しかし、画像番組だからこそ、そういう言葉が使われる場面を設定したのだと思う。普段、本人の前で、外面的な評価（「顔立ち」など）を口に出すのは避けたいもの

³ 『明鏡』（2002）によるもの。

である。

収集例には、次の4例がある。

- (1) 「レオはすばらしい男性だ。」
- (2) 「きみはすばらしい頭の持ち主だね。」(医者 of 言葉)
- (3) 「陽ちゃんはすばらしい。」
- (4) 「お棺の中の母上の顔は、すばらしい美人。」

評価される対象・主体が「1人称」である場合に用いると「自画自讃」になり、尊大な、横柄な態度だと思われがちである。(1)の例で、「レオは」を1人称の「私は」に置き換えてみればよく理解できるであろう。(2)（「医者 of 言葉」⁴）の例を除き、「2人称」の場合もあまり使わない。しかし、用いると、「からかう」意味合いとか「皮肉」などのニュアンスが響き、アイロニー表現になり、マイナス評価となる。もし、(2)のように言われたら、ご本人のあなたは、うれしいと思うだろうか。からかわれたような気がするかもしれない。(3)の例のように「すばらしい」と言われた陽ちゃんは、うれしい気持ちで受け取らなかった。「あなたって、偉いね」という言葉なら耳にしたことがあるが、目上の人に対する評価には、用いられない。かつて私は、授業の後で、学生に次のように褒められたことがある。

- ②? 「先生、宿題の添削が素晴らしかったですよ。とても分かりやすかったから」

しかし、これは、「待遇表現」の観点から見ると、褒められている目上の人からは「失礼な」というニュアンスにとられる。

⁴ 普通の人間より、医者 of 発言には権威あるものと信じられがちである。それにしても冗談半分で言っているのではないと思われる。

いくら好意的にすばらしい言葉で褒めても、逆効果になり、目上の人をプラス評価することは、できない⁵。

また周知の「ご苦労さま」とか「お疲れさま」などの用法もこれと同じことが言える。これらの言葉は、もともと上位者である雇い主などが下位の者へ労をねぎらう言葉であり、逆に下位の者から上位者へは、あまり使われない。

(4) は「亡くなった人」を目の前にする例である。社会通念からして、よほどひどくなければ、亡き人をあまりマイナス評価にしないのが、情けであろう。

〔まとめ〕

- i 評価される対象が目前にいる場合は、使うことを躊躇するが、もし用いれば、マイナス評価になりがちである。
- ii 上位者を正しく評価できず、失礼になる。

〔収集例〕

- (1) 祖父が話しかけてきた。「レオはすばらしい男性だ。お前にふさわしいよ」
 ジョエルは唇を噛んだ。お祖父さまはわかっていないのよ。きちんと話をしなければ。でも、今はまずい。(BK)
- (2) ジャーネは、初めて、ほんとうのことをいった。
 「これはおどろいた。ジャーネくん。きみはすばらしい頭の持ち主だね」と、アッチちゃんのお父さんはいった。「わたしは医者だからはっきりといえるが、中略。」(BK)
- (3) 「陽ちゃんはすばらしい。男ひとすじでやってきたけど、陽ちゃんみたいな子ははじめてよ」
 平田は…中略。それがひどくおかしかった。陽一はおかしさを隠さずに笑った。いくら男ひとすじでも、声やことば

⁵ でも講演などの後で、「大変いい勉強になりました。」などは用いられる。これは講演の内容などを直接評価する言い方ではない。

つきまで芝居気出して変えることはないのに、と思った。

(BK)

- (4) もっと長くいたかったのだが、友人の石倉瑩子さんの母上が亡くなられたので、お通夜に廻った。お棺の中の母上の顔はすばらしい美人。「小母さまって、こんなに美人だったっけ」と言って友達と泣き笑い。(BK)

3-1-2 目前にいない場合

評価される対象・主体が「目の前にいない」3人称の場合は、比較的使いやすい。収集例は、数多く出ている。次の(5)～(11)の例のみを代表例にする。日常生活では、プラス評価ばかりでなく、マイナス評価もする。「あの人って、すばらしい」とか「あの人って、ひどい」などという会話は、陰でなら、よく耳にするであろう。しかし、その本人の前では、あまり前述のような言葉を露骨に言い表さないのが一般的である。褒めるような言葉があると、「どうしたの？きょうは」とか「ちよっといやだわ」などと不信に思われるかも知れない。一般的に身内を褒めないのが、日本では普通なのである。

電話で話す場合も同じことが言える。テレビ番組でみた一例を挙げよう。故郷から宅急便が届いたことを秋田の実家に電話を入れ、お礼をいうシーンだった。「もしもし、奈津子よ。届いたよ、ありがとう」と娘が言ったら、電話口に出た父親が「ああ～、ああ～。じゃ、兄ちゃんを呼ぶから、待ちな」と言った。それを聞いた外国人は「あの言葉って、何？返事をしていない！」とか、「娘にお礼を言われるのに、なんであんなに照れちゃうの？」と、かなり不思議に思うはずである。しかし、日本人なら、「ああ～、ああ～」というだけでも親子間のコミュニケーションがしっかり成り立っていることが分かる。家族間でのお礼は、「他人行儀」と思われているからである。

後述する収集例(11)では、褒める対象・主体が2人称になっているが、直接その人の前での愛の告白なのではない。

〔まとめ〕

人を評価する場合は、次のことが言えよう。

I × 1人称：使用不可能（原則として）

II ? 2人称：あまり使用しない

III ○ 3人称：比較的使用しやすい

〔収集例〕

- (5) 今の「天皇皇后」ってすばらしい人格の持ち主ですね！
尊敬します。(OC)
- (6) 須藤君はそこで都丸さんというすばらしい人に出逢った。
群馬県の民俗のことについては実によく知っている上に、
親切でゆき届いた助言もして下さる。(BK)
- (7) そこでも何人かの音楽の先生にお世話になったけれど、
あのすばらしい修道女のことを一生忘れてはならない。
(BK)
- (8) …中略。と、堂々と答えてあとはいっさい沈黙している。
その場に並みいる平家の武士どもは、「すばらしい剛の者
だ。惜しいものだ、こんな立派な侍を斬るといのは」と
話しあっている。(BK)
- (9) 日本での小学校訪問はとても楽しい経験でした。子供た
ちはすばらしく、お母さんやお父さんもすばらしく、先生
たちもすばらしい方々でした。本当に楽しい訪問でした。
(いちばん p 38)
- (10) 美奈子の前に現れたその時の彼は、あくまでも良子の兄
であった。男らしく、頼もしそうで、やさしい、まれに見
るすばらしそうな男性であった。彼女の心は動いた。しか
しそれを表に現さなかった。(蝶 p137)

(11) そちらに行った時、私はあなたのところに一目散に駆けつける。そしてまた、あなたにプロポーズする。あなたはすばらしすぎて、私には過ぎた人である。でも私は、あなたなしではいられない。(あなたへ p240)

3-2 物を評価する

3-2-1 対象・主体が具体的なもの

「すばらしい」で評価される対象は、人間より、物の方が比較的用いられやすいように思われる。例文を列挙すると、物を評価する例文が歴大に出てきたため、次の例を代表に挙げる。これらは、評価される対象・主体が、「景色、香しさ、花、ごちそう、演技、魚、料理、病院、旅、短剣、くだもの」などである。こういったものは、いずれも「感覚・臭覚・視覚・触感・経験」を通し、具体的に判断できるものであり、話し手の主観的な評価である。

ここで問題になる①の例に戻ってみよう。

①「台北101ビルは、すばらしい。」(前掲)

①の例が言えるか言えないかは、具体的な経験⁶に依存する。そのビルの中に入らないで、ただ信義路上から外観を眺めるだけでは、「すばらしい」とは言えないはずである。その中へ入らなければ、台北101ビルの中身・内容・質なども分からない。そして、そのものを分析や判断もできない。だから、学長が「言えない」と言ったのである。一方、台北101ビルに入ったことがあり、館内のデザインや彫刻などをみて、分析した結果として「台北101ビルは、すばらしい」という評価なのであれば、問題なかろう。

⁶経験とは、評価できる根拠、よりどころ、基準などを指す。

場面を変え、考えてみよう。「猫空」の山頂か、どこかからの見晴らしを言う場合でも同様である。これは、「台北101ビル」が（見えるその眺めが）すばらしい」と感嘆する場合なのである。もちろん「台北101ビル」の中身・内容などといったものを評価するのではない。また、独り言のような場合にも「すばらしい眺め」などと言うこともできる。

〔収集例〕

- (12) 山の上にあった水車風の観覧車もボロボロで、動かせる状態ではなかった。(中略…)しかし、山からの景色は素晴しかった。(100ヶ国 p 301)
- (13) 愛、見てごらん。薔薇の花は美しい。その気高さ、香しさが素晴らしい。穢れなく、たとえ誰に誉められなくても、いつも最後の自分を差し出し最高の花を咲かせるところが素晴らしいと思う。人間も自分の良心に嘘をつかずに生きられたらいいと思う。(リボーン p 7)
- (14) 白い花、こちらは赤と紫の花が一杯。素晴らしいわ。私の好きな紫色の花があるわ。(飛火野日記 p 242)
- (15) 又、外国のホテルを、日本と同じような宿屋だと思っていた一行は、日本をたつとき、行灯や提灯、それに、沢山のお米を用意してきました。しかし、ホテルは、昼間のように明るく、ごちそうも素晴しかったので、これらの品物は恥ずかしくて出せませんでした。(福沢 p 163)
- (16) 高志が言った。(中略…)「どうでした」
「実によかったよ。玉三郎は妖艶だった。白い着物の袖を鶴の羽に見せかけた演技は素晴らしかった。」(愛 p 61-62)
- (17) この魚の外見ほどすばらしいものはない。上のほうが灰色で下が白く、金色の斑点が水のうねりの暗い渦のなかで輝いている。(BK)
- (18) 帰ったら、見知らぬ日本の女性が、すばらしいペルー

料理を届けてくださったということで、ペルーからお着きの知人たちと隣家でお食事をなさると嬉しそう。私たちも招かれたが、例によって食事時間がずれていて、もうお腹に入らない。(BK)

(19) イタリアから大理石を輸入してそこにすばらしい病院をつくる。あの水の無い国に噴水がある。従って、私たちにとって病院といえば、緑の中に病院という印象であった。

(BK)

(20) 私の家では、許可を得たのでなければ、魚つりに行くことができない…中略。それで私はそのまま隠れて魚つりに行きました—ミシシッピ川のずっと上流へです。それは非常に愉快的興奮のともなう、この上なくすばらしい旅であったことだと、思い起こします。(BK)

(21) あやういところで、男は跳び離れた。メロヴェが低く構えた短剣は、細身だが、すばらしい切れ味だった。男のマントが肩のあたりで少し切り裂かれている。「ほう、」と男は微笑んだ。(BK)

(22) レシピ、調理法、果物の柿、生でよく熟れたものをかぶりつくのが一番うまいとは思いますが…中略。日本のほこるすばらしいくだもの、柿。私が食べたのは「柿ようかん」と「柿入りサラダ」。美味しかったです。(BK)

3-2-2 対象・主体が抽象的なもの

収集例には次の例もある。評価される対象・主体は「挑戦していくこと」、「生きることの尊さ」、「生き方に哲学を持って行動する」、「失恋歌の大傑作」、「人の知恵」、「ハワイ」、「永遠に不滅の真善美」を挙げた。しかし、これらは、比較的抽象的なものであり、単なる主観的な評価である。まだはっきりした経験がなくても、話し手の発話意識による単なる推定や想像からの評価にも使われている。次の例がそうである。

- (10) 「まれに見るすばらしそうな男性」(前掲)
- (23) 一見したところこのアイディア - 製品を、キーボードを弾く人たちとともに進化するシステムへと変える - は、すばらしそうに見える。(SUBJECT p 78)
- (24) 中国の田舎の人は「上海」と聞いただけで、日本人が昔「京都」と聞いたように、さぞや素晴らしかろうと思うのでしよう。(日本 p149)

〔収集例〕

- (25) 挑戦していくことのすばらしさや、支えられて生きていくということをあらためて確認する機会にもなりました。
(輝く人 p 77)
- (26) まず、外へ出て、しっかりと遊ぶこと。中略。花などすべての生き物たちと仲良くする。彼らをよく観察する。そう、命の不思議の世界を感じ、生きることの尊さやすばらしさを実感することができる。(もっと p 143)
- (27) 林真理子さんが「今の時代はたくさんの情報に溢れているから、中略。」という話をしていた。その点で山口百恵は生き方に哲学を持って行動してるところが素晴らしいと言っていた。(日記 1998-2003、p 103)
- (28) 愛を求める真情が波のように揺れながら徐々に激しくなっていくあたりが最高。感情移入が理屈抜きにすばらしい失恋歌の大傑作。(BK)
- (29) 「企業のみが豊かになる」と言われる時代だが、今一度人を育てることの大切さ、人の知恵のすばらしさを再認識していただきたいと願っている。(トヨタ式 p 221)
- (30) アルフォードさんに生まれ育ったハワイの素晴らしさを教えてくれたのは、ハイキングが大好きな父親だった。(ハワイ p 33)

(31) しかし視力検査で落ち、結局、昭和十六年に七高の理科乙類に入学しました。七高では、人類のすばらしい文化遺産を、個性的なその道の一流の先生方に淡々と教えていただき、中略。永遠に不滅の真善美のすばらしさに触れることができたことは幸せでした。(BK)

[まとめ]

評価される対象・主体が人間より、物の方が評価されやすいのではないかと考えられる。そして、話し手の主観的な判断により、抽象的なものにも、想像の見地からも使われる。

4 構文について

4-1 否定形が用いられるか

「すばらしい」には、否定形が用いられるか、考察してみたい。再び、学生の作例に戻って考えてみよう。④は、③に対する返事である。「*」は、非文である。

③ A:「あなたって、すばらしい人だね。月給の三分の一を孤児院に寄付するんだって。」

④ * B:「いいえ、素晴らしくないよ。一度やってみたかったんだ。」

「おいしい」や「きれいだ」などのようなプラス評価の語には、「おいしくない」「きれいじゃない」のように否定形が用いられるが、「すばらしい」に、「否定形」を付けると、かなり不自然な言葉となる。つまり、強いプラス評価の語には、否定形が用いられにくいからである。したがって、前述したように、物をかなり高く評価するために「すばらしい」という言葉を使うのが本来の用法である。

また、森田(1992: p 246)によれば、「すばらしく汚い」とか「すばらしく遅い」など、マイナス評価の語にかかわる言い方もしないという。

収集例には、「すばらしくない」とか「すばらしくありません」のような否定形が一例も出てこない。しかしながら、次のような例文はある。()内の数字は、収集例の番号である。

- ・「すばらしいじゃない？」(32)
- ・「すばらしい眺めじゃないか。」(33)
- ・「すばらしいじゃないか？」(34)
- ・「すばらしくないのかという話」(35)
- ・「すばらしいアイデアを思い付きません。」(36)
- ・「すばらしい音楽やダンスは生まれないだろう」(37)

(32)～(34)は、否定疑問文であり、(35)～(37)の例は、連体修飾節の文末に否定形が使われている。つまり、「すばらしい」には、直接否定形が用いられにくい、連体修飾節なら、用いられるということである。

〔収集例〕

(32)「やってみない？」とぼくは父に言った。父はびっくりしてぼくの顔を見た。

「もしも本当にお客がどんどん来たらすばらしいじゃい？」
「しかし、おまえ、五百ドルというのは…」(BK)

(33)「なんともすばらしい眺めじゃないか!？」

「わたしもさきほどから眺めています、たしかにすばらしい眺めですね。これは奇跡です。」(BK)

(34)「中略。…そんなことより、これを見てくれ、鈴木くん。
すばらしいじゃないか?いま電話で話していたところなんだが、『週刊ズームイン』が、是非、この写真を欲しいって言ってるんだよ。」そう言って、津村社長は、例の二枚の写真を鈴木長一郎の目の前に投げやった。(BK)

(35)田久保忠衛も民主主義がすばらしいと言っているんだから、じゃあ、民主主義を暴力で啓蒙することが、なぜ、すばらしくないのかという話になっちゃう。(本日 p 23)

- (36) 分子力に関する僕たちの説を同時に気体にも当てはめることのできるような、すばらしいアイデアを思い付きません。(奇積 p 22)
- (37) そういう風に書くと、まるで全体主義のようだが、もし本当に硬直した全体主義が国全体を被っているなら、これほどすばらしい音楽やダンスは生まれないだろう。(存在 85)

4-2 「素晴らしすぎる」という言い方

収集例には、何と「素晴らしすぎる」という使い方があり、少々気になっている。次の(39)～(43)であるが、前述したように対象・主体をプラス評価するのが、「すばらしい」の本来の使い方である。しかし、「～すぎる」という接尾語が付くと、度を超えるニュアンスが響くから、マイナス評価になりがちである。「程々にしておく」や「物には、ほどがある」という表現がある。しかし、このような言い方は、だいたい望ましくない状況に使われることが多い。つまり、「すばらしさ」を超えると、かえって、望ましくない状態やマイナス評価を意味する傾向になりがちである。次の(38)の例もこの類に入れていいと思う。「声がでかいうえにすばらしい雄弁だ」というと、やはり、望ましくない事柄であるから、マイナス評価だと言える。

(38) 試写会を見に行ったあと、銀座の某・老舗喫茶店でコーヒーを飲んでいて、思わず隣の席の女の子（といっても20代後半だろうが）に注目してしまった。40代半ばの上司とおぼしき男性と話をしているのだが、いやはやなんと、声がでかいうえにすばらしい雄弁だ。(BK)

(43) の例は、用法が異なる。これは、「わたしには、もったいない」という意味にも取れるし、むしろ、自分を見下げ

る謙遜語的なニュアンスが窺える。次の(11)の例も同じ用法である。

(11) そちらに行った時、私はあなたのところに一目散に駆けつける。そしてまた、あなたにプロポーズする。あなたは、すばらしすぎて、私には過ぎた人である。でも、私は、あなたなしではいられない。(あなたへ p 240) 前掲

〔収集例〕

- (39) ストール博士は、(中略…) 30人の躁うつ病者を対象にこの大事な天然の脂肪酸の効果を測るための実験を試みた。(中略…) 当初、この実験は九か月間継続される予定であったが、魚油の成果がすばらしすぎたので、四か月で中断された。(心の病 p 185)
- (40) 人生の四季を過ごすことは、一つの恩寵である。そのエッセンスは「ああ、地球よ、あなたはあまりにもすばらしすぎて、誰もそれに気づかないんだわ」(ソートン・ワイルダー『我が町』)ということだ。(死ぬ p 166)
- (41) 基礎はコンクリートで5メートルくらいも打ち、上部の建物も天井が高くすばらしすぎるのです、また工場の建物をポツンポツンと一つ一つ広く間隔をとって離して建てます。(発見 p 151)
- (42) わたしには、この山田教授の話が、玉のように輝いて見えました。中略。「観達…ようし、これでゆこう。卒業論文はこれに決めた。芭蕉の文学にそれを求めて、すばらしいものを書き上げてやる」—それが、つまり、一夜づきの、すばらしすぎる論文となったわけなのです。(心経 p 26)
- (43) あなたと知り合えたことは、私の人生最後のすばらしい輝き。最高の祝福であることにちがいはありません。けれども、中略。私のような老人にかかずらって、あなたの、

うるわしい青春を浪費しないでください。私には過ぎた、すばらしすぎる『喜寿の祝い』でした。（聖女 p 66-67）

4-3 過去形

まず、次の収集例を先に見てみよう。

(44) 栗原が、またあの壁画を飽かず眺めていたのである。

「見れば見るほどすばらしい!」と栗原はため息をつく。

(BK)

(45) 私は長崎の出身の作家、林京子さんを尊敬しておりますが、私どもとはほぼ同じ年代の林さんに『空罐』というじつにすばらしい短篇があります。(BK)

(46) 「どうでした」

「実によかったよ。玉三郎は妖艶だった。白い着物の袖を鶴の羽に見せかけた演技は素晴らしかった。」(愛 61-62)

(47) 確かにあの瓶詰は友達へのプレゼントにしたり自分のために開けているかぎり、申し分なくすばらしいものだった。(BK)

(48) それを私は、世界文学が日本文学になった、という性格のものといいたいのです。このラインには、大岡昇平がいました。すばらしい作家、すばらしい人間でした。そして安部公房がいました。この会場には安部公房の各国語の翻訳者たちがいらっしやいます。そしてこのラインの後尾に私の文学があると思います。(BK)

(49) 須藤君はそこで都丸さんというすばらしい人に出逢った。群馬県の民俗のことについては実によく知っている上に、親切でゆき届いた助言もして下さる。(BK)

上掲の収集例には、「すばらしい短篇」「すばらしいもの」「すばらしい作家」などのように、連体修飾節が多く使われている。特に国立国語研究所の書き言葉コーパスには、歴大

に出ている⁷。これは、つまり、言い切る「すばらしい」という語より、連体修飾節のほうが用いられやすいことを示唆している。過去形においても、連体修飾節の過去形が数多く収集されている。「すばらしかった」より、「すばらしいものだった」「すばらしい作家でした」などがその例である。次の二年生の作文を見てみよう。

⑤？「きょう、出会った人は、すばらしかった。」

⑥？「今日の一日は、素晴らしかった。」

これらの文には、文法的な間違いがあるというほどではないが、何となくすっきりしない言い方であると感じられる。次のような言い方をすれば、すっきりする。

⑤'「きょうは、すばらしい人に出会った／出会いました。」

⑥'「今日は、すばらしい一日だった／でした。」

しかし、学生はなぜこのような文を作ってしまうのであろうか。これは「すばらしい」という語に限らず、普段、形容詞の過去形、「～かった」（「おいしかった」など）によく注意をさせているためか、形容詞なら、すべて「～かった」の形にすればよいと思いがちなのであろう。指導する側としては、反省している。

5 おわりに

今まで考察してきた「すばらしい」について、まとめると、次の結果が分かる。

《1》「人間・物事」を評価する場合、物事の方が多く用いら

⁷ 例文が 400 ページ（A4 サイズ）ほどある。あまりにも多いので、代表的な例のみを挙げた。

れる。従って、人間が評価の主体になる場合、主に3人称で使われる。

《2》日本語表現には目上の者を評価する語がない。従って、上位者を評価すると、失礼になる。

《3》「台北101ビルは、すばらしい」と言えるかどうかは、話し手の経験に依存する。(3-2-1を参照)

《4》「すばらしい」には、話し手が主観的な判断で、ものを高いレベルでプラス評価をする語であるから、「～ない」のような否定形が付かない。

《5》「すばらしい」には、接尾語の「～すぎる」が付くと、マイナス評価的な用法になりがちである。

本論文では、指導する上で、関わった問題点を中心に考察してきた。類義語の「すてき」「りっぱ」には触れなかったが、「すばらしい」との比較研究は、今後の研究に待つ。

参考文献

- 1 泉原省二、『類義語使い分け辞典』、(日本：研究社、1998)
- 2 木下雪江、『秘書実務』(日本：一橋出版(出版年度がなし))
- 3 『広辞苑』(第5版)、(日本：岩波書店、1998)
- 4 『国語大辞典「言泉」』(第一版)、(日本：小学館、1986)
- 5 国立国語研究所、『動詞・形容詞問題語用例集』(日本：秀英出版、1971)
- 6 国立国語研究所、『形容詞の意味・用法の記述的研究』(日本：秀英出版、1972)
- 7 周 彤「評価基準顕在化の形容詞文——「XガYニZを」を中心に——『国文学解釈と鑑賞』、(日本：至文堂、2009 7月号、p 41-51)
- 8 『大辞泉』(第一版<増補・新装版>)、(日本：小学館、1998)

- 9 『大辞林』(第一版)、(日本:三省堂、1988)
- 10 仁田義雄「日本語文法における形容詞」『月刊言語』3月号、(日本:大修館書店、1998: p 26-35)
- 11 『日本国語大辞典』(第一版)、(日本:小学館、1976)
- 12 『日本語大辞典』(第二版)、(日本:講談社、1995)
- 13 『明鏡国語辞典』、(日本:大修館書店、2002)
- 14 森田良行、『日本語をみがく小辞典』(日本:講談社、1989)
- 15 森田良行、『基礎日本語辞典』、(四版)(日本:角川書店、1992)

用例出典

用例は、新潮文庫の100冊CD-ROM版やインターネット、国立国語研究所、書き言葉コーパスから収集したものである。従って、国立国語研究所、書き言葉コーパスから収集した収集例のBKで始まるファイルは、書籍であり、OCで始まるファイルは、Yahoo!知恵袋である。「BK」、「OC」で簡略する。その他は、次のとおりである。

- 1 いちばん大切なこと: 大切
- 2 果てしなく蝶は行き: 蝶
- 3 あなたへのレクイエム: あなたへ
- 4 騙されて、ボラれて、ドジって100ヶ国: 100ヶ国
- 5 リボン
- 6 飛火野日記: 飛火
- 7 福沢諭吉: 福沢
- 8 愛信寺: 愛
- 9 SUBJECT TO CHANGE: SUBJECT
- 10 日本と中国は理解しあえない: 日本
- 11 輝く人、支えるところ: 輝く人

- 12 もっと輝いて、シニアライフ：もっと
- 13 嘘をつく日々に慣れないでーアフロ日記：日記
- 14 トヨタ式「改善」の進め方：トヨタ式
- 15 ハワイスタイル NO.6：ハワイ
- 16 本日の雑談：本日
- 17 アインシュタイン 26 歳の奇蹟の三大業績：奇蹟
- 18 「普通の女の子」として存在したくないあなたへ
- 19 あなたへのレクイエム：あなたへ
- 20 心の病は食事で治す：心の病
- 21 死ぬまでに達成すべき 25 の目標：死ぬ
- 22 60 歳からの中国再発見：発見
- 23 般若心経を生きる：心経
- 24 「今を生きる」わたし聖女の告白：聖女
- 25 愛信寺：愛